

# 2022 年度事業報告

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

新材料及びこれに関連する科学技術分野における**公益事業 1**（研究助成、国際交流助成、国際シンポジウム助成の各事業）並びに**公益事業 2**（科学技術啓蒙助成事業）について、計画通り実施した。

## 公益事業 1

### 1. 研究助成

#### 1-1. 研究助成

##### (1) 2022 年度（第 34 回）研究助成の実施

2022 年 3 月の第 77 回（公益認定後第 30 回）理事会で承認・決定した 12 名に助成金を贈呈した。各研究テーマへの助成額は 1 件 2,000 千円で、総額 24,000 千円。応募総数は 54 件であった。

##### (2) 2023 年度（第 35 回）研究助成の公募

公募期間は 2022 年 8 月 1 日から 9 月 22 日、応募総数は 36 件であった。選考委員による書類審査を経て、2022 年 12 月 1 日の選考委員会において候補者 15 名を選出し、2023 年 3 月の第 79 回（公益認定後第 32 回）理事会で承認・決定した。

#### 1-2. スタートアップ助成

##### (1) 2022 年度（第 2 回）スタートアップ助成の実施

2022 年 3 月の第 77 回（公益認定後第 30 回）理事会で承認・決定した 12 名に助成金を贈呈した。各研究テーマへの助成額は 1 件 1,000 千円で、総額 12,000 千円。応募総数は 37 件であった。

##### (2) 2023 年度（第 3 回）スタートアップ助成の公募

公募期間は 2022 年 8 月 1 日から 9 月 22 日、応募総数は 29 件であった。選考委員による書類審査を経て、2022 年 12 月 1 日の選考委員会において候補者 14 名を選出し、2023 年 3 月の第 79 回（公益認定後第 32 回）理事会で承認・決定した。

#### 1-3. 発展研究助成

(1) 2022 年度（第 3 回）発展研究助成の実施

2022 年 3 月の第 77 回（公益認定後第 30 回）理事会で承認・決定した 2 名に助成金を贈呈した。各研究テーマへの助成額は 1 件 5,000 千円で、総額 10,000 千円。

(2) 2023 年度（第 4 回）発展研究助成の選考

2022 年 12 月 1 日の選考委員会において、2021 年度研究助成の終了者（12 名）を対象として、候補者 3 名を選考した。2023 年 3 月の第 79 回（公益認定後第 32 回）理事会で承認・決定した。

## 2. 国際交流助成

(1) 2022 年度（第 35 回）国際交流助成の実施

選考委員による審査選考にて選出し、2022 年 5 月の第 78 回（公益認定後第 31 回）理事会で、7 名への助成金の贈呈が承認・決定した。助成額は最高 250 千円で、総額 1,700 千円。うち 1 件はオンライン開催となり、総額 1,590 千円を贈呈した。

(2) 2020 年度（第 33 回）国際交流助成の実施

2020 年度助成対象者のうち、2022 年度に延期開催となった国際会議に参加する 2 名に助成金を贈呈した。1 名はオンライン参加、1 名は現地参加、助成額は総額 380 千円。また、2022 年度に参加予定だった 2 名のうち、1 名は大学の方針で渡航許可が下りず辞退、もう 1 名は参加予定の国際会議が中止となった。2023 年度以降に延期開催予定の国際会議に参加する 1 名については、開催年度に助成金を贈呈する。

(2) 2023 年度（第 36 回）国際交流助成の公募

公募期間は 2023 年 2 月 1 日から 3 月 22 日、応募件数は 13 件であった。

## 3. 国際シンポジウム助成

(1) 2022 年度（第 33 回）国際シンポジウム助成の実施

2022 年 3 月の第 77 回（公益認定後第 30 回）理事会で承認・決定した 9 件のうち、2022 年度開催の 7 件に総額 2,100 千円を贈呈した。2023 年度以降に延期開催予定の 2 件については、開催年度に助成金を贈呈する。

(2) 2020 年度（第 31 回）国際シンポジウム助成の実施

2020 年度助成対象案件のうち、2022 年度に延期開催となった 1 件に助成金 300 千円を贈呈した。もう 1 件は 2022 年度に延期開催予定だったが中止となった。2023 年

度以降に延期開催予定の 2 件については、開催年度に助成金を贈呈する。

(3) 2021 年度（第 32 回）国際シンポジウム助成の実施

2021 年度助成対象案件のうち、2022 年度に延期開催予定だった 2 件は 2023 年度以降に再延期開催となった。

(4) 2023 年度（第 34 回）国際シンポジウム助成の公募

公募期間は 2022 年 8 月 1 日から 9 月 22 日、応募総数は 7 件であった。選考委員による書類審査を経て、2022 年 12 月 1 日の選考委員会において 7 件を候補として選出し、2023 年 3 月の第 79 回（公益認定後第 32 回）理事会で承認・決定した。

#### 4. 研究成果報告会

2022 年 12 月 1～2 日、(株) トクヤマ・徳山製造所を主会場とし、2021 年度研究助成金受領者と 2020 年度発展研究助成金受領者による第 25 回研究成果報告会をハイブリッド形式にて開催した。

#### 公益事業 2

1. おもしろワクワク化学の世界展への助成（2022 年度（第 30 回））

2022 年 3 月の第 77 回（公益認定後第 30 回）理事会で承認・決定した日本化学会中国四国支部主催の「おもしろワクワク化学の世界'22 愛媛化学展」（2022 年 8 月 11～12 日/松山市）に助成金を贈呈した。助成額は 2,000 千円。

2. 少年少女発明クラブへの助成（2022 年度（第 16 回））

山口県内 7 つの少年少女発明クラブに助成金を贈呈した。助成額は 1 クラブ 50 千円、総額 350 千円。

## 2022年度（第34回）研究助成

（12件、総額 24,000千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額 （千円）
1	石川理史	33	特別助教	神奈川大学 工学部 物質生命 化学科	多元系結晶性複合酸化物触媒の開発と触媒機能調査	2,000
2	石田直樹	41	准教授	京都大学 大学院工学研究科 合成・生物化学専攻	光エネルギーを活用する脱水素カップリング反応の研究	2,000
3	小林亮	39	准教授	名古屋大学 未来材料・システム研究所 材料創製部門	鉛・希土類フリー高誘電・強誘電ナノ材料の開発を志向した酸化チタンナノシートの開発	2,000
4	高津浩	39	講師	京都大学 工学研究科 附属工学 基盤教育研究センター	応力下の低温トポケミカル反応を用いた酸素空孔配列の制御と革新機能の創出	2,000
5	田代省平	43	准教授	東京大学 大学院理学系研究 科 化学専攻	金属有機クラスターをノードとした非対称配位高分子の精密設計	2,000
6	田中裕也	39	助教	東京工業大学 科学技術創成 研究院 化学生命化学研究所	酸化還元刺激に応答する有機金属単分子スイッチの開発	2,000
7	田原一邦	44	専任教授	明治大学 理工学部 応用化学 科	芳香族性・反芳香族性のチューニングによる有機半導体の開発と材料化学への展開	2,000
8	中川慎太郎	33	助教	東京大学 生産技術研究所 物質・ 環境系部門	オレフィンメタセシスによる結合トポロジ変換機構を有する高強度・易成形性架橋高分子の創製	2,000
9	星野哲久	44	助教	東北大学 多元物質科学研究 所	分子性量子磁石の電氣的センシングによる超高密度メモリーデバイスの研究	2,000
10	山門陵平	35	助教	山形大学 大学院有機材料シ ステム研究科 有機材料シ テム専攻	イオンペア添加がトリガーとなるオンデマンド型材料の開発	2,000
11	山田道夫	40	准教授	東京学芸大学 教育学部 自然 科学系・分子科学分野	光電変換材料を指向した剛直なフラレン誘導体の創製と配列制御	2,000
12	吉田優	40	准教授	東京理科大学 先進工学部 生 命システム工学科	高度に縮環したフェノチアジン類の新しい合成法の開発	2,000

## 2022年度（第2回）スタートアップ助成

（12件、総額12,000千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額 （千円）
1	大曲仁美	31	助教	青山学院大学 理工学部 化学・生命科学科	有機分子と希土類イオンの二重発光の相対強度変調を指向した多様な分子内エネルギー移動経路を有する分子の開発	1,000
2	織田耕彦	29	助教	東京工業大学 物質理工学院 応用化学系	水/超臨界CO <sub>2</sub> 系の逆ミセルによる水放出挙動制御に基づいた有機-無機ハイブリッドナノ結晶の革新的ドライ合成への挑戦	1,000
3	川谷諒	29	特任助教	信州大学 繊維学部 -	並進二重重合による高強度ハイドロゲルの開発	1,000
4	北山雄己哉	36	特別助教	大阪府立大学 大学院工学研究科 物質化学専攻 応用化学分野	微粒子界面光反応を利用したヤヌス状高分子カプセル創出法の確立	1,000
5	佐古真	32	助教	大阪大学 薬学研究科 創成薬学専攻	ピナフチル構造を軸とする新規キラル分子の創成と機能性材料としての応用	1,000
6	鈴木肇	31	助教	京都大学 大学院工学研究科 物質エネルギー化学専攻	複雑な積層構造を有する新規酸ハロゲン化物光触媒の開発	1,000
7	関根康平	33	助教	九州大学 先端物質化学研究所 物質基盤化学部門	ペンタレン類を起点とするn拡張分子の創製	1,000
8	曾川洋光	37	准教授	関西大学 化学生命工学部 化学・物質工学科	結合形成と分解を連続的に制御したバイオマス高分子の設計と創出	1,000
9	田中正樹	32	助教	東京農工大学 大学院工学研究科 生命工学専攻	強分極膜を自発形成する極性分子の配向メカニズム	1,000
10	張 文鋭	32	特任助教	東京工業大学 理学院 化学系	新構造型酸化物イオン伝導体の創製と伝導メカニズムの解明	1,000
11	保坂知宙	28	助教	東京理科大学 研究推進機構 総合研究院	カリウムイオン電池の急速充放電および長期安定作動を実現する非化学量論組成プルシアンブルー類似体材料の創製	1,000
12	松原正樹	36	講師	東北大学 多元物質科学研究所 無機材料研究部門	熱応答性配位子による銅ナノプリント基板の低温作製	1,000

## 2022年度（第3回） 発展研究助成

（2件、総額 10,000 千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額 （千円）
1	貞清正彰	37	講師	東京理科大学 理学部第一部 応用化学科	ゲスト誘起イオン伝導現象を利用した新規超 マグネシウムイオン伝導材料の開発	5,000
2	山本孟	32	助教	東北大学 多元物質科学研究 所	遷移金属酸化物の化学結合操作による新しい 物性・機能の創成	5,000

## 2022年度（第35回）国際交流助成

（7件 1,590千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	会議名（機関・場所）	研究題目	助成額 （千円）	備考
1	アファリア ジェシカ・ボ ウリン・カス ティリオ	38	助教	筑波大学 数理物質 系	第47回赤外線・ミリ波・テラヘルツ 波国際会議（IRMMW-THz 2022）（2022/08/28- 2022/09/02）、デルフト[オランダ]	MoSe2およびWSe2において観測 された層間フォノンのテラヘルツ 波発光分光	250	実施 現地
2	石川 功	30	助教	鳥取大学 工学部	第7回世界トライボロジー会議 （WTC2022）（2022/07/10- 2022/07/15）、リヨン[フランス]	a-C:H膜上に吸着する水分子が摩 擦特性に及ぼす影響	250	実施 現地
3	大崎 修司	32	助教	大阪府立大学 大学 院工学研究科	第8回MOFに関する国際会議 （MOF2022）（2022/09/04- 2022/09/07）、ドレスデン[ドイツ]	柔軟性金属有機構造体の凝集体構 造制御とその吸着特性評価	250	実施 現地
4	高村 紀充	36	助教	福岡大学 工学部	第4回誘電体に関する国際会議 （ICD2022）（2022/07/03- 2022/07/07）、パレルモ[イタリア]	窒素ファイナバブルの生成時間が 異なるパーマヤシ脂肪酸エステル の比誘電率と誘電正接	250	実施 現地
5	徳留 靖明	40	准教授	大阪府立大学 工学 研究科	第17回国際粘土学会（2022/07/25- 2022/07/29）、イスタンブール[トル コ]	層状複水酸化物：最先端2次元材料 の合成とそのエネルギー、環境、 バイオ分野への応用	90	実施 オンライン
6	平田 祐樹	35	助教	東京工業大学 科学 技術創成研究院	第32回国際ダイヤモンド・炭素材料 会議（2022/09/04-2022/09/08）、 リスボン[ポルトガル]	FCVA法およびCVD法により作製 した3次元ta-C膜の特性比較	250	実施 現地
7	山下 健一	41	講師	大阪大学 大学院理 学研究科	第12回国際ポルフィリン・フタロシ アニン学会（ICPP-12） （2022/07/10-2022/07/15）、マド リード[スペイン]	構造が明確なポリアニン様アミ ノポルフィリン多量体のレドック ススイッチング	250	実施 現地

## 2020年度（第33回）国際交流助成

（過年度助成済7件680千円、2022年度助成済2件380千円、

辞退1件、中止1件、未助成1件）

(五十音順)

No.	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	会議名・期間・場所	研究題目	助成額 (千円)	備考
1	河野慎一郎	41	講師	名古屋大学 大学院 理学研究科	第28回液晶国際会議(2020/07/26- 07/31)、リスボン[ポルトガル]	大環状化合物からなるカラムナー 液晶中のナノ空間の開拓	130	2022/7/24 -30実施 オンライン
2	横井太史	35	准教授	東京医科歯科大学 生体材料工学研究 所	第32回医療用セラミックスに関する 国際会議(2020/10/20-10/23)、 ヴェネツィア[イタリア]	層状リン酸カルシウムから水酸ア パタイトへのトポタクティック転 化反応のメカニズム	250	2022/9/20 -23実施 現地

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、国際会議の開催が2021年度以降に延期となったため、  
2020年度助成者のうち、2022年度に助成実施した件数のみを掲載。

## 2022 年度（第 33 回）国際シンポジウム助成

（2022 年度助成済 7 件 2,100 千円、未助成 2 件 600 千円）

### 1. 第 11 回微粒子磁性国際会議

（ the 11th International Conference on Fine Particle Magnetism (ICFPM-2022)）

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 第 11 回微粒子磁性国際会議 組織委員会

開 催 時 期 2022 年 5 月 30 日-6 月 3 日 → 変更 2022 年 10 月 16 日-21 日

開 催 場 所 横浜シンポジア（横浜市）

規 模 参加者 147 名（国内 39 名、海外 108 名 うちオンライン参加 20 名）

目的と成果 本会議では世界の磁性微粒子の専門家が参集し、量子力学から、がん治療応用まで、最先端の研究を同一会場で討議する。今回初めてアジアでの開催を招致し、海外からも 70 名が VISA を取得して現地参加してくれた。議場では敬意と好奇心にあふれた討議が行われ、イブニングセッションでは女性集会や若手研究者集会も行われた。学生たちも自身の発表や設営準備に取り組んだ。不透明な時世での会議開催であったが、国内外の研究者の間で洗練された議論と意見交換を行うことができ、海外からの研究者も非常に満足して帰国され、日本の学術とホスピタリティの評価も高まった。

### 2. 第 27 回光エレクトロニクス・光通信国際会議/国際会議フォトニクスをベースとするスイッチングとコンピューティング 2022

（ 27th OptoElectronics and Communications Conference (OECC2022)）

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 OECC/PSC 2022 運営委員会

開 催 時 期 2022 年 7 月 3 日～7 日 → 変更 2022 年 7 月 3 日-6 日

開 催 場 所 富山国際会議場（富山市） → 変更 ハイブリッド開催

規 模 参加者 595 名（国内 390 名、海外 205 名）

目的と成果 互いに密接に関連した領域が多い OECC と PSC を共同で開催することにより、その基盤技術からシステム応用まで幅広い研究分野の研究者が一同に会して議論する場を提供できた。コロナ禍の影響が継続しているにも関わらず、11 名の海外からの研究者を現地に迎えての発表・聴講・議論を行えたことは、相乗効果を高めた大きな交流の場を提供できたと考える。特にオンライン聴講ではアジア・オセアニア地域で聴講可能なシステムプラットフォームを選択するなど、海外からの参加者を考慮した環境の整備により、オンラインであっても研究者間の交流を促進する機会を提供することができた。

### 3. 第9回東京国際触媒学会 (9th Tokyo Conference on Advanced Catalytic Science and Technology (TOCAT9))

助成額 触媒学会  
主催団体 2022年7月24日～29日  
開催時期 福岡国際会議場（福岡市） → 変更 ハイブリッド開催  
開催場所 Onsite：485名（国内393名、海外92名） Online：156名  
参加者641名  
規模 触媒学会  
目的と成果 本会議は、細菌由来の免疫増強複合糖質リポ多糖の化学と生物学、ならびに関連受容体の発見により注目を集めている自然免疫について討議するために隔年で開催される国際学会である。今回は、コロナ禍ゆえに1年開催が延期され、さらにハイブリッド開催となった。研究者が会場で一堂に会することは困難だったが、世界の第一線で活躍する関連分野の研究者が、最新の研究成果を共有できた。29件の招待講演、18件の一般講演、28件のポスター発表が実施され、特に、現状の重要課題である感染症に対するワクチン開発などにも繋がる研究成果が報告された。

### 4. 京都大学エネルギー理工学研究所 第13回国際シンポジウム (The 13th International Symposium of Advanced Energy Science)

助成額 300千円  
主催団体 京都大学エネルギー理工学研究所  
開催時期 2022年7月24日～29日  
開催場所 京都大学 宇治キャンパス（宇治市） → 変更 ハイブリッド開催  
規模 参加者330名（国内315名、海外15名）  
目的と成果 本国際会議は、エネルギー・環境・資源問題に対する国際社会の要請、ならびにエネルギー研究に関連する多彩な研究者コミュニティからの要望に応え、太陽光、レーザー、バイオ、原子力、プラズマに関する国内外の研究者による講演、およびポスター発表を実施した。関連する学問領域における最新の研究を発表・討議し、幅広い基礎学術や応用科学の創出、また、研究者ネットワークの拡大に貢献した。また、学生によるポスター発表を実施し、エネルギー科学における分野横断的・融合的な若手人材の交流と育成に貢献した。

## 5. 桐蔭医用工学国際シンポジウム 2022

( 17th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering ( ISBME))

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 桐蔭横浜大学大学院工学研究科

開 催 時 期 2022 年 11 月 11 日～12 日

開 催 場 所 桐蔭横浜大学 中央棟（横浜市）→ 変更 ハイブリッド開催

規 模 参加者 128 名（国内 126 名、海外 2 名）

目的と成果 本シンポジウムは本学近隣の若手研究者に刺激的な交流の場を提供し、医用工学分野で国際的に活躍する人材を育成することを目的としている。招待講演はオンラインで 3 題、一般発表の口頭発表 6 題とポスター発表 52 題、また、高校生ポスター発表 9 題は全て会場にて対面で実施した。学内外から、全体で 128 名の参加者があった。参加学生の中には初めての対面かつ英語での発表となる場合もあり、大変貴重な場を提供できた。初めてピッチ形式の発表も取り入れたが、参加者全員で 1 つの発表を通して聞く機会になり、参加者にも好評であった。

## 6. 第 33 回太陽光発電国際会議

( 33rd International Photovoltaic Science and Engineering Conference(PVSEC-33))

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 第 33 回太陽光発電国際会議組織委員会

開 催 時 期 2022 年 11 月 13 日～18 日

開 催 場 所 名古屋国際会議場（名古屋市）→ 変更 ハイブリッド開催

規 模 Onsite : 654 名、Online : 188 名

参加者 842 名（国内 542 名、海外 300 名）

目的と成果 コロナ禍における初めてのハイブリッド開催であったが、コロナ禍以前の参加者数・論文投稿数を維持することができた。当初の想定より多くの現地参加があり、現地での活発な議論やネットワーキング活動が行われた。海外からの参加は 28 ヶ国、300 名となり、参加者比率としては 36%と高い値となった。太陽光発電が世界規模で重要な研究開発課題となっていることが伺える。学生の参加者が 338 名と参加者比率の 40%となり、例年よりも多くの学生に参加があり、若手研究者育成という観点からも有益な成果を挙げることができた。

## 7. 第10回アジア生物無機化学国際会議

( Asian Biological Inorganic Chemistry Conference( AsBIC10 ))

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 アジア生物無機化学協会

開 催 時 期 2022 年 11 月 28 日～12 月 3 日

開 催 場 所 神戸国際会議場他（神戸市）→ 変更 ハイブリッド開催

規 模 参加者 348 名（国内 217 名、海外 131 名）

目的と成果 本国際会議は、生命活動を維持するために必須の役割を担う多様な金属イオンの機能解明と応用に関する化学（生物無機化学）の最先端で活躍する研究・教育者、博士研究員、学生が一同に会して最新の情報を共有することにより、当該分野の発展と国際相互理解を促進するとともに、若手研究者の育成を目的としている。コロナ禍という難しい状況下ではあったが、完全対面式で開催し、26 カ国から 348 名が参加し、10 件の基調講演、5 件の受賞講演、32 件の Keynote 講演、99 件の招待講演、25 件の口頭発表、および 127 件のポスター発表を行い、活発に議論を行うとともに、世代や国境を越えた研究者間の友好を深めることができた。

2022 年度分のうち、当年度内に助成した件数のみを掲載。未助成分は延期年度で助成および掲載の予定。

## 2020年度（第31回）国際シンポジウム助成

（過年度助成済4件 1,100千円、2022年度助成済1件 300千円、  
中止1件、未助成2件 600千円）

### 1. 第25回国際純粋・応用化学連合・物理有機化学国際会議 (International Conference on Physical Organic Chemistry (ICPOC25))

助成額 300千円  
主催団体 ICPOC25 実行委員会  
開催時期 2020年7月5日～10日 → 変更 2022年7月10日～15日  
開催場所 グランドプリンスホテル広島（広島市） → 変更 ハイブリッド開催  
規模 Onsite : 261名（国内217名、海外44名）  
Online : 70名（国内43名、海外27名）  
総参加者 331名（国内260名、海外71名）

目的と成果 物理有機化学の研究者が一堂に会し、研究成果の発表を通し、最新の研究成果を共有し、次の研究課題を議論する機会となった。この分野で著名な化学研究者と100名を超える若い研究者が熱い議論を交わし、明るい将来を見る思いであった。

物理有機化学の研究者は、新しい分子や反応を設計し、自分で合成して反応を行いさらに自分で物性を調べ、反応を解析することができる。その研究過程で開発した物質や反応を社会に還元することができ、また、基礎的な研究を行うことで、新しいアイデアを提案できる。このような物理有機化学の可能性を実感する国際会議となった。

2020年度分のうち、2022年度内に助成した件数のみを掲載。未助成分は延期年度で助成および掲載の予定。

## 2022 年度（第 31 回） 科学技術啓蒙助成

事業名称	おもしろワクワク化学の世界 '22 愛媛化学展
助成額	2,000 千円
主催	公益社団法人 日本化学会中国四国支部
共催	公益財団法人 徳山科学技術振興財団
後援	(株) トクヤマ、帝人 (株)、住友化学 (株)、太陽石油 (株)
大会委員長	愛媛大学、愛媛県教育委員会・松山市教育委員会、愛媛新聞社、NHK 松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ
実行委員長	大下浄治 (広島大学大学院 教授、2022 年度日本化学会中国四国支部長)
実行委員	林実 (愛媛大学 教授)
開催期間	愛媛大学 (理工学研究科・工学部、学術支援センター)、住友化学 (株)、帝人 (株)
場所	2022 年 8 月 11 日 (祝・木) ~ 8 月 12 日 (金) 2 日間
展示ブース	松山市総合コミュニティセンター企画展示ホール 1 階
参加対象者	実験ブース数 13 (大学 9、企業 2、高校 2)
事業概要	<p>化学はもっとも身近なもので、私たち人間が考え、行動することを含め、日常生活しているものすべて化学を基本として成り立っている。私たちは長年にわたって蓄積された科学技術をもとにした高度文明社会に住んでいるが、まわりには環境問題、エネルギー問題、食料問題、医薬、医療等、解決すべき課題が数多くある。これらの問題解決に果たす化学の役割は極めて大きく、化学に携わる多くの次世代を担う青少年の育成が今後ますます重要となっている。今回の愛媛化学展では、最先端の技術から生まれたものから、古くから知られている事柄の展示や実演まで幅広い内容を企画した。多くは身近に見聞きする材料を使った実験で、この企画を通して子供たちが少しでも「化学は面白いな、理科は好き」となることを願っている。</p> <p>愛媛地区では今回が 5 回目 (本開催は 10 年ぶり) の開催で、県・市のイベントガイドラインに沿った感染防止対策を取った上で 3 年ぶりに対面での開催となったが、感染流行期にもかかわらず、準備段階での対策が功を奏し、安全・安心な形で対面での化学展を実施することができた。</p> <p>来場者は、各実験ブースで学生スタッフから説明を受けた上で実験を行い、化学の不思議さ、面白さに触れていた。子供たちのみならず、同伴の保護者も、色が変わったり光ったりする様子やカルメラ焼きが膨らんだりする様子を興味深そうに眺めたり、スーパーボールなどのモノを実際に手で触って感触を確かめたり、描いた絵が水に浮かぶ様子に目を輝かせたりしていたのが印象的だった。</p> <p>「10 年前にあった愛媛化学展でもらった周期表で化学が好きになって、また来ました」というアンケート回答があった。また「身近な題材で大人 (保護者) も不思議に思っていたことがわかって有意義でした」とのご意見もあった。今回のこの化学展が、愛媛の子供のみならず大人を含めた多くの人たちに化学の面白さ・大切さを知ってもらう機会になり、次の世代の化学を担う人材が愛媛から生まれることを願っている。</p>

事業名称	少年少女発明クラブ
助成額	1クラブ 50千円（7クラブ合計 350千円）
主催	（一社）山口県発明協会、山口県内市町村教育委員会
共催	山口県内市町村、同公共施設、同商工会議所 他
運営組織	各クラブの企画運営委員会
活動期間	2022年4月1日～2023年3月31日（1年間）
場所	山口県内公共施設
参加対象者	小中学生及びその保護者
事業概要	少年少女発明クラブは、現在、全国に 214 のクラブがあり、約 11,000 名の子どもたちが、約 2,800 名の指導員のもと科学的な原理に基づく工作実習、創作活動等の体験学習を行っている。山口県では現在 7 クラブ（下関市、山口市、宇部市、防府市、周南市、柳井市、田布施町）が活動している。本活動は、子どもたちに地域の特徴を生かした創意工夫に基づく創作活動の場を提供し、作品製作や実験を通じて、アイデアを形にする能力と技術を持った創造性豊かな人間形成に寄与することを目的として活動し、有意義な成果が得られている。